

ファッションタウン桐生「2006わがまち風景賞」 講評と審査経過

1. 講評

「わがまち風景賞」は桐生の市民運動

審査委員長 伊達 美徳

この風景賞は、その「ファッションタウン」の概念を基本とし、「桐生」という地域性、「わがまち」という個性、「風景」という見る人の心が支える姿を対象としています。桐生を支える産業と豊かな生活圏とが合う風景を、優先的に選考しています。

今年もたくさんの応募が、特に合併して広がった地域からもあり、ファッションタウン運動の広がりを期待させます。

本町の「玉上薬局」は、看板がとりまいていた建物を元の伝統的な姿を生かして美しく修復して、この通りの景観をいっそう引き立てて商売繁盛となったことを評価しました。

「元宿浄水場」は、昭和のはじめから桐生の産業と生活をになってきました。その貴重となった近代建築群の風景とともにお茶摘みなどで市民開放の姿勢も高く評価しました。

梅田の「鳳仙寺」は、森と古刹が実に美しく調和している風景とともに、市民の文化活動の場ともなっていることを評価しました。

合併で桐生市となった新里町の「ぐんま昆虫の森」は、そこに生きる昆虫を通じて伝統的な地域生活圏を再現して人と自然のあり方を提示しています。移築古民家と里山で原風景再現そして斬新な新建築による風景創造を評価し、わがまち風景として今後の成熟を期待しています。

同じく黒保根町の「旧水沼製糸場」は、かつてこの地域の基幹産業であった製糸産業を創出し育成した由緒ある場所であり、今は貴重な製糸関係資料がある土蔵と女工たちの宿舎だった長屋門そして工場跡地があるのみですが、周辺と一体となった風景の美しさを賞するとともに、この場所の持つ歴史的価値の記憶を継承していくことを期待して選定しました。

この風景賞は、桐生市民のまちづくり運動です。今後もさらなる広がりを期待します。

(都市計画家)

桐生の奥深さを再認識

審査委員 山口 一郎

本年度の審査対象には、旧黒保根村と旧新里村があらたに加わった。これにより桐生市の面積はもとより自然と歴史の多様性における大きなふくらみを実感し、一層の発展への期待感を抱いた。今回の候補対象には、周りの自然との深い関わりと調和を感じさせるものが目だっていた。6回目を迎える風景賞にも新たな刺激と可能性がつけ加わったことは確かであろう。

ぐんま昆虫の森は、熱帯植物の間を蝶が舞い、周囲の鉄骨が優雅なカーブを描くモダンで大きな温室が独特であった。これに対して旧水沼製糸場は渡良瀬溪谷を見下ろす急斜面の森の間に数百人の働く製糸工場と寄宿舍が建てられていたという説明に創始者の志を改めて思った。本町二丁目の旧玉上薬局は懐かしい雰囲気を出す街並の中、表構えの復元により往年の面影を明確にしようとの意欲、元宿浄水場では小山と渡良瀬川に挟まれた緑の敷地の間に点在するクラシックな建物とその中で今も稼動する古いポンプ類、そして梅田の鳳仙寺は、杉林の道の奥に、仁王が守る堂堂たる山門を擁する風格と静けさ、これらのそれぞれに改めて桐生の奥

深さを再認識した。

(群馬大学工学部教授)

市民の宝物を大切に

審査委員 鈴木 正三

2006わがまち風景賞現地視察審査会は、好天に恵まれた一日であった。春の豊かな光りの中で見る風景・建物群は、それぞれが独自の色彩や構造をそれぞれに表しており、歴史と時間の調和を見せてくれていた。

選ばれた5件は、それなりの存在感があり順位をつける必要はないが、私の中では『元宿浄水場』の建物群が印象的であった。職員の説明や資料によれば、桐生市の上水道は、衛生・防火・工業用水の必要性から大正11年(1922年)に計画が始まり、昭和7年に給水を始めている。しかも当時の建物やシステムが現在も機能しているという事実、改めて関係者・先人の努力と先見性に感謝。個人的な好みでは、水道資料館・ポンプ室・水道山記念館の建物に魅力を感じる。外壁のスクラッチタイルの色とテクスチャーがなんとも言えない好い感じを出している。いずれも登録有形文化財に指定されている市民の宝物である。大切にしたい。

(桐生文化協会事務局長)

こころの眼に映る「風景」の奥行き

審査委員 島崎憲司郎

合併後の桐生市になって、より広い地域の前回を上回る候補対象の中で今回ひととき強く印象に残ったのは、僕の場合「元宿浄水場」です。この施設は現在放送中のNHKの連続ドラマ「純情きらり」のロケ地にもなっている通り、昭和初期の時代設定にピッタリと叶う折り紙付きの貴重な文化財でもあります。私事ですが、遠い昔、昆虫少年のはしくれだった僕は、捕虫網を携えてこのあたりの雑木林を駆けめぐったり、すぐ向こうの渡良瀬川で泳いだり魚釣りをしたものでした。当時僕らが「水源地」と呼んでいた広い敷地内に点在する厳めしい建物の内部をこのたび隅々まで見学させて戴き、悪童時代の記憶の中の風景の「謎」の部分が半世紀近くを経てすっかり氷解した次第です。整然としたパイプラインや各種のバルブ、昭和七年製造と刻印された動力ポンプ、ずらりと並んだ計器類、地下の貯水槽に続く鉄の階段や無機質な手すり…、それらの、アナログ全盛時代の、さながらカール・グロスベルクの厳密な機械画を彷彿とさせる、無用のデザインなど一切排した硬質な機能美もまた一つの絶景になっていました。その意味でも元宿浄水場をめぐる風景は重層的で奥が深く、竣工当時の国内外の情勢などを想起させる象徴性にも満ちています。ふだん何気なく使っている水道のありがたさや、わがまち桐生の水利の良さに改めて感謝しつつ、今はお役御免となって展示されている日立製巨大モーターの丸い肩のあたりを「お疲れさま」となでてあげたい気分でした。

(毛鉤作家)

自らの審美眼を研いで

審査委員 利根川 泉

桐生が広がって最初の「わがまち風景賞」だったけど、ホント広くなりましたね。なにしろ知らない場所の多いこと！。ふとした路地裏から緑の公園まで様々な桐生がありましたよ。しかし古い桐生だけでなく新しい桐生の顔も確かに多くなっているのも事実。進行形の風景も含めて自らの審美眼を研いで街を見ていかなくてはと思った。

(写真家)

はじめて審査に参加して

審査委員 町田 悦子

ファッションタウン桐生「わがまち風景賞」の審査委員としてはじめて参加させていただきました。

審査のために4月22日の現地視察に参加してあらためて感じたことは、桐生・新里・黒保根の各地区ごとに、地形・風土・文化など、その地区に根差した違いをはっきりと肌で感じ取ることが出来ました。

今回50以上もの応募ヶ所の中から5点選出することはとてもむずかしい作業でしたが、昨年6月13日の合併後はじめての審査会ということも考慮していただき、各地区の特徴ある風景を選ぶことが出来て本当によかったと思いました。

山あり川あり、そして多くの人々がつどう桐生市。織都桐生に加えて、新しい魅力のファッションタウン桐生の風景を発見し、市民の皆様をはじめ、大勢の方々にその魅力を感じていただけるよう祈念致します。
(桐生市議会議員)

桐生の素晴らしい風景を造り上げよう

審査委員 久保田恵美子

昨年6月、桐生市・新里村・黒保根村の合併により、新『桐生市』が誕生し初の「わがまち風景賞」を迎え、広域に渡る現地審査が行われた。

風景には、まちの歩みや人々の生活の営みが映し出され、長い歴史の蓄積の上に育まれたものであるが、今回の現地審査により、私の中で新たな捉え方が加わった様に思えた。それは、風景とは心の中にも存在し、また、私達の手で育んで行くものであると再認識したからである。審査会におきまして、古き良き伝統ある風景の他に、正面ファサードを江戸時代の薬局の姿に再現した『玉上薬局』の建物や、『ぐんま昆虫の森』の新建築を含めた空間が賞に選出されたからである。これまで新しい風景は、賞の対象から漏れていたのが現状で、今回は一歩前進した様に感じた。『ぐんま昆虫の森』は確か、昨年開設した最も新しい施設で、広大な豊かな自然の中で、昆虫達が生活を営む姿を観察し、またそこで体験して学ぶと言う、新たな風景が提供されている。まだまだ風景としての確立は薄い様に思えるが、この新しい風景を、私達の手で造り育み、「良き風景の一步」にと選定した様に思える。

まとめとして、『桐生らしさ』、それは伝統産業である「繊維のまち桐生」「織物のまち桐生」と今まで誰もが認識してきたと思うが、市町村合併により、新『桐生市』の誕生を、新たな契機として捉え、私達の手で造り、守り、育み、普及し、若者達の息吹も取り入れながら、産・学・官と連携し、地域一体となり真剣に、かつ持続的に取り組み、我が郷土『桐生の素晴らしい風景』を造り上げ、後世に残したいと考える。
(桐生短期大学教授)

改めて認識できた桐生の風景

審査委員 松井 裕

今年は、1市2村合併後、最初の「わがまち風景賞」ということで、行政区域は2倍になり、それぞれの地区における特徴もさまざまのなかで、審査員も多少の交代があり、雰囲気も新たに熱の入った審査でした。

現地調査において、普段は開放していない民家ですが、伺った時は親切に庭や家の中を見せてくれ、保存している理由や使用状況などを説明してくれたり、座敷にあがらせてくれた家もあり感動しました。また、保存するための維持管理などには、大変なご努力と維持費が伴うことを知ることができました。

こんなこともあってか、選定ではどうしても人情票となり、FTの趣旨である「桐生らしい独自の都市風景」が前提にあるにもかかわらず「公共施設など、今後もしばらくは残るであろう」と思われるものよりも先にという気持ちになってしまいました。

何れにいたしましても伯仲した議論の末、5件が選考されましたが、審査員の意見は、それぞれの考え方など参考になるものでした。

今回で2回目の審査員として参加できたことで、「桐生市の風景は、歴史や産業そして人間性などが大きく影響されて造られ、今日に至ったこと」を改めて認識できる貴重な機会となりました。

そして、このような市民活動は、他市に見られないすばらしい活動であると同時に権威あるものと深く痛感いたしました。

(桐生市都市計画部都市計画課課長補佐兼まちづくり推進係長)

「沈黙の風景」を再発見しよう

審査委員 赤池 孝彦

視点を変えることで、わかりきった地図が迷路になることがある。例えば、イヌの臭覚をもとにニオイの濃淡で地図を作ってみれば良い。訳のわからない地図ができあがる。審査の判断基準の数が審査員20名分あれば、イヌの地図と変わらなくなる。

私の基準は、たった一つ。それは、所有者が個人であるかどうか。個人所有者の苦労は、想像するに難しくない。しかも、候補にあげられる景観を保持しており、この賞の名にふさわしいと判断したからである。

一方、公的予算をかけた施設や何やらの文化財に指定され、すでに賞を受けたことがあるような地域に重ねて賞を与える意味があるのだろうか。審査会では、審査員自らが地元地域のアピールをするという不思議な光景も目にした。

街なかで見過ごされてしまっている「沈黙の風景」を再発見すべきではなかったのか。そう感じられなかったのは、初参加の私だけだったのだろうか？

(美術作家・桐生森芳工場運営委員)

受賞に至らなかった風景にも輝きが

審査委員 山田 耕司

人が生み出し、人の目で磨かれた風景・・・それが今回の私個人の審査基準である。

受賞に至らない件の中にも、推薦者の動機も含めて印象深いものがある。「石井経理事務所前の植え込み」などが、その好例である。「玉上薬局」には、所有者の町に対する愛情と責任感を強く感じる。そのお向かいの「花のにしはら(旧・書上文左衛門邸)」も同じく桐生らしい風景への復元を実行した件である。次回の推薦に期待する。新里・黒保根の風景が対象に加わった。心強い。

(わたらせフィルムコミッション代表)

桐生のことを考えるよい機会に

審査委員 齋藤 千江

はじめての参加で、勝手がわからずとまどってばかりでした。プロジェクトのみなさんが1年間かけて選んだ候補を、会議と見学会のたった2回で審査し決定してよいのだろうかと思し訳ない気持ちが残りました。審査回数を増やすことがよいこととは限りませんが、自分としては反省するばかりでした。桐生のまちのことを考えるよい機会になり、楽しかったです。

(群馬県女性建築士協会桐生支部長)

桐生の歴史・文化には潜在的な可能性が

審査委員 岩崎 正徳

この度ファッションタウン桐生「2006わがまち風景賞」の審査員として、桐生市を少しその気になって見せていただいていたのは、桐生市のストックの多さ、ポテンシャルの深さということでした。

また今回、奇しくも新里・黒保根両町から選考されたのが、桐生の織物産業を支えた、養蚕のために改良された赤城型民家及び旧水沼製糸場であったのは、桐生市の奥行きが更に深くなったことを実感させられました。

現在、桐生市については、悲観的に語られることが少なくありませんが、その歴史や文化、潜在的な可能性という観点からまちを考えた場合、他市にはない独特のものを秘めていることが分かりました。市の将来は、市民がそれら誇りを受け入れ、育てていくことにかかっていると考えられます。そのためにもこの風景賞の意味は大きいと思いました。

(桐生市新里支所地域政策課次長)

今後の魅力ある都市づくりの核として

審査委員 茂木 徳造

- 1 新里町地区から初めて審査に参加したが、浅学非才、視野が狭く、本賞の趣旨目的についても十分理解していたとは言えず、数多くの価値あるものの中から、5件を選び出す事は辛いものがあつた。

特に、合併特例的に新里町地区と黒保根町地区に各1件の入賞枠をお願いしたことは、旧桐生市内の入賞数にしわ寄せがいったのではないかと懸念している。新生桐生市としての一体感の醸成と、両地域における今後の掘り起こしへの期待感といった戦略的な観点での審査意見であり、ご理解いただきたい。

- 2 旧桐生市内にはさすがに歴史と伝統と高い文化性を有する物件・景観が沢山あり、新鮮な発見があつた。特に、戦災都市と比べ、ファッションタウン桐生としての誇るべき物件、魅力ある景観が随所に見られた。都市はいきものであり、これらが、今後、魅力ある都市づくりの核として生かされることに期待をしている。
- 3 入賞物件は勿論であるが、審査対象になった全ての物件について、その維持管理が行き届いており、管理者に敬意を表したい。

(NPO法人新里昆虫研究会副理事長)

新たな感動と驚きに出会え感謝

審査委員 小島 杏菜

天候にも恵まれ、ファッションタウンの意義が説明される中、私の心は弾んでいました。とくに元宿浄水場では、幼い頃に絵画や書道の展覧会や、催物で遊びに行った記憶が鮮やかに甦りました。

そして、初めて訪れたぐんま昆虫の森では、とても貴重な体験をさせてもらいました。大の虫嫌いの私は、蝶と触れ合える博物館では失神しそうになりながらも、生物の神秘に触れ、また新たな感動と驚きに出会え、一つ視野が開けたような気がしました。

桐生短期大学学生代表審査員として参加させて頂いたのに、審査員という大役を忘れ少々観光気分になってしまいましたが、このような素晴らしい企画に参加させて頂いたことに、心から感謝申し上げます。

(桐生短期大学2年)

すばらしい建物の多さに驚き

審査委員 石川 真帆

「わがまち風景賞」の審査をさせて頂いて、多くの建物、それに関する色々な意見や考えに触れる事ができて、大変ありがたく思っています。私が桐生で普段目にする建物は限られているので、こんなに皆がすばらしいと思う建物があるのかと驚きました。審査の段階でも5つにしぼるのは本当に大変でした。中には私的に、あまり興味が持てない建物などがあつたりもしたのですが、それも最初だけで、実際見たり、皆さんの討論を聞いて視野が変わって良く見えたりなどもしました。これだけ視点が変わるなら、1つの建物に色々な意見を出し、じっくり話し合うことはとても重要なことだと思いました。この活動によって得た考え方や、見てきた建物を、今後の活動に活かせるようにがんばりたいです。（桐生工業高校建築科3年）

2. 審査経過

2006わがまち風景賞プロジェクトチーム

「2006わがまち風景賞」は平成17年10月末から翌18年2月20日まで案件の募集を行った。今回も平成17年秋の桐生ファッションウィークに桐生市有鄰館味噌醤油蔵で「わがまち風景賞パネル展」を開催し、この会場でも推薦用紙を配布した。

例年と同じく桐生市内の3か所（有鄰館、ゆい、織物参考館）に応募ポストを設置し、推薦者の利便を図った。推薦・応募案件は、審査委員会を開催するにあたり、プロジェクトチームにより重複する案件を1つにまとめるなどの作業を経て、52の審査対象案件となった。

第1回目の審査委員会は3月28日（火）午後2時から桐生商工会議所会館4階405号室で開かれた。委嘱された22人の審査委員のうち委員15人が出席し、互選により伊達美徳氏が昨年に引き続き審査委員長に選任された。案件のリストとともにパワーポイントによる画像での説明がプロジェクトチームにより示された。昨年



まで、登録文化財を含めた国、県、市等の指定文化財は1件のみの選出とされていたが、今回より3件までとすることが確認された。

画像提示後の協議で、各委員からのベスト10を出してもらうことにし、高得点をあげた案件を中心に15案件を第2次審査である現地視察の対象案件とした。

第2回目の審査会は4月22日（土）朝から現地視察と審査会の2本立てで行われたが、昨年6月13日の旧新里村、旧黒保根村との合併により、審査案件もそれらの地区に広がり、現

地視察はハードなスケジュールとなった。参加者は審査委員18人、プロジェクトメンバー9人、事務局2人、総勢29人。第1回目上位得票案件を中心に15か所をマイクロバスで巡ったが、時間的な制約もあり車中から視察した案件も数件あった。なお、昼食は新里町の山上城跡公園の芝生の上でとなったが、好天のお日様の下でいただくお弁当は最高。参加者は童心に返ってピクニック気分でランチを楽しんでいた。

現地視察により新しい桐生市の多彩な風景に触れた審査会は、その後、桐生商工会議所に戻ってからの協議でも余韻が残り、熱心な意見交換が行われた。審査は委員それぞれの熱い思い入れもあり、なかなか合意に至らず今回も長時間にわたった。様々な議論がなされ、最終的に審査委員に本日の現地視察案件から5件、それ以外の審査対象案件から2件を投票してもらった上で投票結果をもとに再び協議、その後も激論が交わされたが、それでもやはり絞りきれず審査は難航した。

結果的に5件が「2006わがまち風景賞」として選出されたが、これらと変わらない評価をされた案件も多くあったことを強調しておきたい。



3. 改善したい風景・思い出の風景

風景賞の大きな特徴であるわがまち桐生の「改善したい風景」には、今回、少数ではあるが、以下のような意見が寄せられた。

- 中心市街地の各所に目立ち始めた更地（古い建物が壊されている）。
- 商店街前の歩道（タイル張りにしても、すぐに工事で切り刻まれボコボコの道になり、見た目も悪くなる。そしてタイル張り→工事の繰り返し。何とかならないか。）。
- 新川公園。新川の暗渠（あんきょ）。

一方、わがまち桐生の「思い出の風景」、「意見」は次の通り。

- 本町通りの堀（水流）。
- 本町通りに堀を再現してほしい（浅くていい）。
- 錦町交差点にロータリーを復元してほしい。

以上であるが、かつての桐生の特徴的な風景、個人的な思い入れのある風景が挙げられている。

4. 2006わがまち風景賞の選出作業を終わって

心温まる市民運動へ

プロジェクトリーダー 川口 貴志

今第6回目は、新・桐生市となり初めての風景賞ということで、審査委員やプロジェクトメンバーには、新しい地域でまちづくりの活動をされている方々に参加して頂きました。

現地視察を通じて感じたことは、旧水沼製糸場をはじめ、各審査対象案件の説明をして下さった方々も含め、皆さん自分達を育ててくれたそれぞれの地域を本当に愛されていて、また深く掘り下げる活動を長く積み重ねてきていらっしゃるということでした。多くを学ばせて頂きましたし、心より敬意を払いたいと思います。

プロジェクトとしては、今回合併にともない、まずお互いを“深く知り合う”ということに重点を据えました。5回目迄とはまた趣の違ったチャレンジの6回目ではなかったでしょうか。

審査委員の方々からは、「音や光の風景があってもいいですね」などの意見も出ており、確かに「香や情の風景」と云った、また新しい視座を予感させる6回目でもありました。

次回以降への課題としては、推薦・応募の方法や内容についての再検討が挙げられます。

第1回目よりここまで立ち上げてこられた諸先輩方の理念を受け継ぎながら、桐生市民だれでもが自然に関わってゆきたくするような心温まる市民運動へ展開してゆくことが、プロジェクトのミッションだと思っています。

私事になりますが、不慣れな自分を一年間支えてくれましたプロジェクトメンバー並びに商工会議所事務局の皆さんに感謝申し上げます。有難うございました。

(株)アンカー代表取締役)

ファッションタウン桐生「わがまち風景賞」

- 2001 有鄰館・アッシュ・泉新・宮本町和洋折衷住宅群・山手通り・本町1、2丁目
- 2002 今源織物・金善ビル・桐生織塾・群大同窓記念会館・芭蕉・錦桜橋
- 2003 矢野本店店舗・桐生天満宮古民具骨董市・菱の氷庫・後藤の鋸屋根工場・須藤邸
- 2004 大川美術館・田村家住宅・桐生森芳工場・彦部家住宅・無鄰館
- 2005 金谷レース工業・南川潤住宅・日本キリスト教団桐生教会・樹徳高等学校木造校舎・桐生新町西裏路地
- 2006 元宿浄水場の昭和初期の建物群・鳳仙寺・玉上薬局・ぐんま昆虫の森・旧水沼製糸場